

ほんちゆうつうしん

# 本 丁 通 信

編集・発行  
 児玉源太郎顕彰会  
 〒745-0874  
 山口県周南市公園区5854-41  
 周南文化協会 内  
 TEL. 0834-22-8190

印刷 柳 精文社  
 山口県周南市若宮町1-55  
 TEL. 0834-21-1611

## 児玉源太郎の顕彰会発足 没後110年 周南で設立総会

### 設立総会

日本の近代化を推進した明治の偉人、児玉源太郎の顕彰会は昨年6月9日、児玉源太郎のふるさと周南市で設立総会を開きました。会場の周南市文化会館三階展示室には、役員候補二十人のうち十一人が出席、会則や役員選任、



児玉源太郎 総設

事業計画と予算の案をすべて原案通り承認しました。

会長は小川亮 元徳山市長、副会長五人、理事十二人、監事一人、幹事八人、事務局長一人。事業計画は会報創刊号の発行、記念式典、記念講演会などの開催。会員は五百人を見込み、予算は会費と寄付金などで四百万円。事務局は周南市文化会館内の周南文化協会に設置としました。

児玉源太郎の没後百十年にしてようやく顕彰会は産声を上げました。ふるさとを拠点に北海道から九州まで全国へ呼びかけて百年先を見据えた活動を展開することになりました。

設立総会で出席者に意見を求めたところ次のような発言がありました。「児玉源太郎の偉業を次の世代に

受け継ぐ、意義のある組織が発足し、とても嬉しい」

「これからの社会を動かすのは若者たち。その世代の人づくりがこの組織として関わっていききたい」

「徳山駅の駅ビルも、市役所の新庁舎も建設されてこのまちが生まれ変わる。あれほどの人物だ。児玉源太郎のまちとして全国に紹介できるような活動をしたい」

「児玉源太郎顕彰会として土台作り、枠組み作りをしつかりとさせて、確固たる信念で確固たる組織にしたい。百年先を見据えた活動を展開しなければならぬ。設立発起人の四人は90歳代と80歳代であり、この人たちの思いを次世代に受け継いでもらいたい」

### 会報「藤園」創刊号

顕彰会設立とともに初めに手がけたのが機関誌としての会報創刊号の編集です。役員の中から編集委員7人を選任、7月から9月まで5回の編集会議を重ねて方針と内容を決め、執筆や原稿依頼、校正などの作業を進めました。

創刊号はA4判、カラー48ページ。児玉源太郎とはどんな人物だったのか、何を為してきたのか、私たちは設立にあたってどんな取

り組みをしてきたのか、をできるだけ伝えることに努めました。

小川亮会長や赤尾嘉文、黒神公直ら五人の副会長をはじめ、日本政治外交史が専門の小林道彦北九州市立大学教授、高山治元山口県教育長ら十九人が執筆、あらゆる角度から紹介しました。

会報「藤園」の名は、児玉源太郎の号で、書をしたためる時に使っていてその自筆を生かしました。本丁の居宅に藤棚があったことから「藤園」を号にしたようです。

10月1日発行、札幌から福岡まで全国の会員全員にお届けしたのをはじめ、国会図書館、山口県立図書館、周南市や近隣の図書館、地元と東京の新聞社とテレビ局などに配付しました。期待以上の充実した編集とその内容に高い評価を戴いています。

次号は、6月に開催予定の平成29年度総会に合わせて発行することになっています。どうぞお楽しみに。会員の皆様からの積極的な寄稿もお待ちしております。

### 設立記念式典

児玉源太郎顕彰会を6月9日に発足させたあと、会報創刊号の編集を急ぎ、発行した段階で本格的

な活動をスタートさせるための設立記念式典を10月8日周南市の遠石会館で開催しました。

出席者は役員や会員をはじめ、文化団体や地元経済界などから百五十二人。式典で小川亮会長は、旧制徳山中学校四年と五年の一年間、一日も欠かさず児玉神社に参拝した思い出に触れ、児玉源太郎が藩校の興譲館に通っていた頃、曾祖父が教授をしていたこと、児玉源太郎が亡くなった時に長男から記念の品を頂戴したことなどを披露。続いて台湾総督として後藤新平とともに台湾近代化の基盤を作り、満州軍総参謀長として日露戦争を勝利に導き、陸軍、内務、文部の各大臣を歴任、日本の近代化を推進した児玉源太郎の業績を紹介しました。

晩年はふるさと徳山の生家跡に私財を投じて図書館の児玉文庫を設立したことも大きな業績であるとして最後に「幕末の志士に負けない識見と行動力を持っていた郷土の偉大な人物を顕彰し、後世に伝えていきたい」と挨拶。

木村健一郎市長は「児玉源太郎をNHK大河ドラマにするのが夢。顕彰会と連携し、機運を高めていきたい」と祝辞を述べました。

北九州市立大学の小林道彦教授



(日本政治外交史)は「児玉が日露戦争開戦を主張したのは日本本土が戦場になるのを避けるため、さらに伊藤博文と連携して軍部を内閣の統制下に置こうとしていた。昭和の悲劇を食い止める可能性があった軍人、政治家として再評価されるべき」とスピーチしました。

林芳正参議院議員の裕子夫人が児玉源太郎の玄孫にあたる木戸知子さんのメッセージを披露。このあと、来場された遠来の会員をご紹介しました。札幌の田口さやかさん、東京の浅見哲さん、芦屋の神足泰弘さん、福岡の玉虫幸人さん、古河美保さんの五人です。続いて児玉源太郎の漢詩を日本吟道岳誠流師範の森谷京岳さん、柴田優岳さんが吟じ、兼重元市議会議長の発声で乾杯してニューシティウインズの団員二人が演奏する中、食事をしながら和やかに歓談が続きました。

出席者には会報「藤園」創刊号

と美術博物館で販売している児玉源太郎の一筆箋、クリアファイル、寿美屋のものな「三五庵」を記念の品としてお渡ししました。「三五庵」は源太郎本人が設計、桜馬場の屋敷跡に作った藁葺き屋根の庵。もなかは彼が愛した藤の花にちなみ、紫芋を素材とした庵型です。

### 設立記念講演会

設立記念式典に続いて開催したのが講演会です。12月10日、周南市文化会館三階展示室に百三十一人が参加しました。

講師は児玉源太郎研究の第一人者、北九州市立大学の小林道彦教授(日本政治外交史)。「児玉源太郎にみる日本近代史の転換点」と題したお話はとても興味深く大変好評でした。

講演では、第四次伊藤博文内閣で陸軍大臣、第一次桂太郎内閣で内務大臣、文部大臣などを歴任し



た児玉について、日露戦争を勝利に導いた勇将としてだけでなく、政治家、経世家としてのスケールの大きさをその人間的な魅力とともに後世に伝えるべきだと力説されました。

また、最新の研究をもとに、帝国憲法をより弾力的に運用して政党政治をめざし、内閣の機能強化を図るとともに内閣の統制下に陸軍を置こうと考えた伊藤に協力したのが児玉で、この時、文部省の廃止や三府四十三県を一府一十四県にする府県廃置案、参謀本部の縮小や憲兵制度、陸軍経理学校、陸軍幼年学校の廃止、郡制廃止などの構想もあったと述べられました。

「児玉や伊藤がもう少し生きて改革を実行できていればその後の軍の暴走による悲劇は相当の確率で食い止められたのではないかと指摘されました。

講演を聴いた人たちは「私たちの知らないことが多く、とても興味深いお話でした。研究をもとに具体的な話を提示されるので説得力があつてグイグイと引き込まれました」と感想を述べていました。

小林教授にはこれからも継続して最新の研究成果をご紹介いただくことを考えています。

## 児玉源太郎顕彰会へ 寄せられる声の数々

東京

\* 木戸知子さん

10月8日の児玉源太郎顕彰会設立記念式典で披露された木戸知子さんのメッセージを全文ご紹介し  
ます。林方正参議院議員の伯母で、  
児玉源太郎の玄孫にあたられます。

本日は、児玉源太郎顕彰会設立  
記念式典の開催、誠におめでとう  
ございます。林方正の伯母の木戸  
知子でございます。方正が平素か  
ら皆様にお世話になり、心より感  
謝申し上げます。  
没後百年となり、地元の皆様  
に偲んでお集まり頂き、有り難く  
存じます。

私にとって児玉源太郎は、木戸  
の祖母鶴子の父にあたり、曾祖父  
という関係になります。祖母鶴子  
は、十一番目の末っ子として生ま  
れ、九歳の時に源太郎は亡くなら  
れたとの事、残念ながら児玉源太  
郎のことを詳しく聞いた思い出は  
ありません。松子夫人は、子供の

教育に厳しく、日本刺繍など、手  
芸の達人と聞いております。祖母  
の鶴子も、紹刺しやろうけつ染を  
楽しみました。祖母は、学習院を  
でて、木戸幸一内大臣に嫁ぎ、宮  
様方との交流が深かったので、次  
女の井上和子は、美智子皇后の女  
官長を務めました。

東京方面には、源太郎、松子の  
墓があり、お参りしております。  
青山の明治記念館には、源太郎の  
馬上の絵が飾られ、江ノ島には、  
洞穴で作戦を練ったという言い伝  
えの勝利の神社もあります。横須  
賀の戦艦三笠に写真があり、靖国  
神社にも展示されております。

様々な方が活躍を記して下さい、  
曾祖父も感謝している事とおも  
います。詳しい逸話などお話できな  
く、御無礼をお許しください。

東京

\* 児玉 紀さん

児玉源太郎が居宅を構えていた  
東京都新宿区市谷にお住まいの曾  
孫夫人、児玉紀さんから顕彰会事

務局へお便りが届きました。

昨年7月14日付消印で「先日は  
大将関係の資料をお送り下さいま  
してありがとうございます。新聞  
の地方版も大きく取上げて下さり  
感激致しました」、10月19日付消  
印では「先日は資料やら藤園等お  
送り下さいまして誠にありがとう  
存じます。郷土の方々が御尽力下  
さって御立派な顕彰会が発足致し  
ました。(中略)どうぞ皆様の御  
健勝と御活躍をお祈りして居りま  
す」と。

6月9日に児玉源太郎顕彰会を  
設立したと、10月1日に会報  
創刊号「藤園」を刊行したことな  
どを報告させて頂きました。その  
返信として差し出されました。  
顕彰会ではこれからも折に触れ  
て、児玉家へのご報告を続けてい  
きたいと考えています。

札幌

\* 田口さやかさん

顕彰会設立とともに早速会員に  
なられた札幌市の田口さやかさん  
は、10月8日周南市の遠石会館で  
催された設立記念式典に出席、地  
元の会員から大歓迎されました。

翌日の午前中は、周南市文化会  
館で周南邦舞連盟の発表会を鑑賞、  
美術博物館スタッフともランチを

囲んで交流を深めました。「先日  
はお忙しい中、ご案内して頂き、  
ありがとうございます」と北海  
道のお菓子が届きました。

今年の年賀状には「昨年は記念  
式典にてお会いでき、色々なお話  
を聞かせて頂き勉強になりました。  
また写真やDVDも本当にありが  
とうございます」と書いてありま  
した。

福岡

\* 玉虫 幸人さん

\* 古河 美保さん

映画「二百二高地」を見て児玉  
源太郎のファンになった福岡市の  
玉虫幸人さんとお仲間の古河美保  
さんも記念式典に出席、「いろい  
ろな方に声をかけていただいて緊  
張もほぐれ、楽しく過ごすことが  
できました。12月10日の講演会に  
は参加できませんが、いろいろな  
会に参加したいと考えております」と  
連名でお便りを頂戴しました。

玉虫さんの熱い思いに同ジテー  
ブルの会員は圧倒されていました。

周南・関東

\* 長沼 孝雄さん

会報「藤園」創刊号に中国・新  
京の児玉公園の思い出を綴られた  
日新製鋼OBの長沼孝雄さんは、

お仲間を次々と紹介、会員の輪を  
広げてくださいました。

千葉県佐倉市にお住まいの石川  
邦彦さんもお一人です。会員  
ご入会のあと早速メールが届きま  
した。

「11月19日、日新製鋼本社OB  
会総会に出席いたしました。元日  
新製鋼副社長の重國昭夫さんが出  
席されていましたので、顕彰会の  
入会をお勧めしたところ、直ぐに  
了承していただきました。(中略)  
重国さんは新京第一中学へ通学し  
ていた頃、新京の児玉公園の横に  
住んでいたとのことでした」。

日新製鋼OBの方々、会員の輪  
を広げていただき、ありがとうございます。  
皆様方の願われる「い  
つかNHKの大河ドラマに登場し  
てもらいたい」との夢が実現でき  
るように、ともに力を合わせて盛  
り上げていきましょう。

石川さんの住まれる佐倉市は、  
かつて児玉源太郎が東京鎮台第一  
連隊長兼佐倉営所司令官として五  
年間暮らした町です。縁を感じま  
す。



**目標の五百人を達成**  
**初年度会員**  
**五百六十人・件**

児玉源太郎顕彰会の会員は昨年  
10月19日、初年度の目標五百人・  
件を達成しました。2月末現在、  
個人会員四百九十八人、団体会員  
三十一人、協賛会員十七人・件、  
寄付金十四人・件、合わせて五百  
六十人・件です。

昨年6月9日顕彰会設立ととも  
に全国へ向けて会員募集を始めま  
した。「児玉源太郎はもつと評価  
されないといけない」「顕彰会を  
応援していきたい」と次々と反応  
がありました。

会員は児玉源太郎のふるさと、  
周南市をはじめ、札幌から福岡ま  
で全国に及んでいます。東京十九  
人、千葉五人、埼玉と神奈川各四  
人と首都圏だけでも三十一人が加  
入されています。

ありがとうございます。



**29年度会員**

**3月から募集スタート**

**継続会員もどっぴろで手続きを！**

児玉源太郎顕彰会は29年度から  
二年目に入ります。4月から一年  
を通して活動するのは初めてです。  
29年度総会をはじめ、総会に合わ  
せて会報「藤園」第二号を発行、  
児玉源太郎の命日にちなんで七月  
に「藤園」忌を開催するほか講演  
会も計画します。

近く役員会を開いて29年度事業

計画と収支予算の案を協議し、総  
会にお諮りします。28年度事業報  
告と収支決算もお示しします。会  
報「藤園」第二号の編集作業は早  
速着手、6月の総会までに刊行し  
ます。  
皆様方には29年度会員の継続と、  
新規会員への呼びかけもご協力く  
ださい。

**ホームページ開設**

児玉源太郎顕彰会の活動を伝えて、児玉  
源太郎の業績を広く紹介するホームペー  
ジを開設しました。

日本の近代化を推進した明治の偉人とし  
ての児玉源太郎の業績と年譜、顕彰会の小  
川亮会長の挨拶、顕彰会の会則と組織、活  
動内容、顕彰会設立に関わるQ&A、会員  
募集などの情報を盛り込んでいます。

ご意見やご感想をお寄せください。

**ホームページ**

<http://kodama-gentaro.com/>

**メールアドレス**

[kenshokai@kodama-gentaro.com](mailto:kenshokai@kodama-gentaro.com)

# 新聞各紙が報道

## テレビ局も次々と伝える

児玉源太郎顕彰会設立とともに新聞各紙が報道しました。

昨年6月10日付の紙面には「児玉源太郎の業績発信 没後110年周南に顕彰会」(読売新聞)「有志が顕彰会発足 児玉源太郎没後110年真実の姿を次世代へ」(毎日新聞)「児玉源太郎足跡を伝える 没後110年出身地・周南に顕彰会」(中国新聞)「児玉源太郎の顕彰会発足 周南で設立総会」(山口新聞)「徳山の誇り伝えたい 児玉源太郎顕彰会設立」(日刊新周南)と二段、四段の見出しで大きく扱っています。

児玉源太郎が明治39年(1906)に55歳で逝去してから110年。ようやく起ちあげることが出来た歴史的な意義を伝えることにもなりました。

10月1日発行の会報「藤園」創刊号や10月8日の設立記念式典、12月10日の設立記念講演会も相次いで報道、顕彰会にとっては大きな励ましでした。

新聞だけでなく山口放送やテレビ山口、シテイケーブル周南なども映像で紹介しました。今後の活動についても出来る限りの報道をお願いしていきます。

# 支局長評論

周南

周南市出身で台湾総督、陸軍大臣などを務めた児玉源太郎(1852~1906年)の顕彰会が8日、市内で設立記念式典を開きました。顕彰会は没後110年を機に6月、小川亮・元徳山市長らが発足させました。

大正時代の確執の中、二〇三高地を攻略し、旅順陥落に導いた戦術家として名をはせました。

# 藤園

児玉源太郎といえは日露戦争です。満州軍総参謀長として前線で指揮を執り、乃木希典率いる第三軍による旅順攻略戦で

式典では、児玉の評伝を著した北九州市立大の小林道彦教授(日本政治外交史)が児玉の戦術家、政治家の両面に光を当てスピーチしました。

開きつつあった状況把握し、ロシア軍の日本本土への侵攻も考慮に入れた危機意識がもたらしたものと分析します。

一方、小林教授は政治家児玉について、軍を内閣の統制下に置こうとした伊藤博文との連携に注目します。明治憲法下で、軍は自らの行動について直接、天皇に上奏(報告)し、裁可を受けることができませんでした。伊藤や山県有朋ら元勳たちが政治と軍事を掌握していた時代は軍を抑えることができませんでした。伊藤は元勳亡き後を見据えて改革を目指したのです。しかし、児玉は日露講和条約調印の翌年に病に倒れ、伊藤も3年後に暗殺されます。

伊藤と児玉が手を携えて改革を進めていたら。小林教授は「昭和の悲劇を食い止める可能性があった軍人、政治家として再評価されるべきだ」と締めくくりました。



周南・大山典男

# 毎日新聞支局長評論 紹介

児玉源太郎顕彰会の活動を伝える記事で異色だったのが、10月17日付の毎日新聞山口東版に掲載された大山典男周南支局長の「支局長評論 藤の園」です。設立記念式典での北九州市立大学の小林道彦教授(日本政治外交史)のスピーチの要点をまとめて巧みに紹介しています。小林教授は児玉の評伝を著して研究の第一人者です。毎日新聞の了解を得てここに全文を掲載します。



## 【特別寄稿】

## 源太郎は甘えん坊だった

吉原

雍なすく

## 《あの体と顔》

児玉源太郎を初めて写真で見た人は驚く。「え、これが日露戦争で有名な児玉大将？」

ムリもない。ヒゲを生やして強そうな姿なら期待通りだろう。だが写真の印象は「小柄、秀才、男前、優しい、甘えん坊」 屈強な軍人の真反対だからね。

だが彼はあの体と顔で何度も凄惨な戦いをして勝ってきたのだ。幕末には幕府軍と、明治初期には西郷隆盛と、日露戦争ではロシア軍と、台湾では原住民と。

まあその意外性の話はここまでにして、源太郎の本質は柔と剛どっちと思うかと問われたら、僕は「柔」男前で優しげな甘えん坊」の方を選びたい。

児玉という人は「お母ちゃんっ子の甘えん坊」だったのであるまいかと、僕は想像しているのだ。

もちろん源太郎の幼少期は江戸時代だし、侍の家だから、今みたく「お母ちゃんっ」と甘えたとは思わない。少なくとも人前では

## 絶対に（笑）

だが人陰では違ったんじゃないか。以下私見紹介。（笑）

## 《お母ちゃんっ》

児玉家に娘はいたが、周囲は息子の誕生を待ち望んでいた。母は期待の男子を産んで「でかした、アッパレ」と褒められ、本人も「武家の嫁の役目を果たした」と大喜び。日ごと母性に目覚めて、源太郎が可愛くてたまらなくて、人陰で猫かわいがりした（笑）

さらに皆さんご存知のように、源太郎の家は父が不遇の死を遂げ、後には跡取りの婿も暗殺されて家名断絶。一家はどん底の暮らしかあえいだ。

その苦難の生活を内職して必死に支えたのが母で、それだけに母が源太郎に寄せた児玉家再興の期待は大きかった。

いきおい幼少期の源太郎は、父や義兄の姿よりもそんな母の姿をまじかに見て育った。

だから母が折りに触れて語った

教えも生涯忘れなかった。「人間同士が憎んだり殺し合ったりせず、仲よく暮らせる世の中が一番じゃ。お前は勉強してそんな世の中を作る人になるんですよ」

後に戦場や政治の土壇場に立った時、源太郎は「お母ちゃんっ、僕の判断は正しいじゃろうか」と心につぶやいたにちがいない。

（ギャラリー二匹の猫）



# 周南文化協会と児玉源太郎顕彰会

西崎 博史

児玉源太郎顕彰会の設立とともに事務局を置いたのが、周南文化協会です。

平成15年4月、徳山市、新南陽市、鹿野町、熊毛町の二市二町が合併して周南市が誕生、その翌年に各文化協会も周南文化協会として生まれ変わりました。統一するまでの一年間、会議に会議を重ねて調整された、諸先輩の苦労は大変なものであったと伺っています。

周南文化協会は、音楽や演劇、舞踊、詩吟、文学、美術、書道、陶芸、手工芸、茶道、華道など一十一連盟、百七十五団体、約一千一百人が会員として加入、それぞれの分野で積極的な活動を展開しています。その際立った活動は山口県内でも注目されています。

しっかりとした組織の文化協会が、児玉源太郎顕彰会の事務局を受けるといふ前提で、顕彰会設立の動きは一気に加速しました。文化協会にとつては、事務局としてお世話することで力を発揮し、存在感を高めることになる、一方で顕彰会は専従スタッフを置けない今の段階を支えてもらえる、との利点があります。良き関係を築いて基盤を強くすれば双方にとつて嬉し

いことです。

文化協会からは顕彰会の理事に久行保徳さん（周南文学連盟会長）、弘中榮二さん（徳山地方郷土史研究会会長）、山下武右さん（周南文化協会参与）、監事に掛川潔さん（周南文化協会事務局長）、幹事に川上浩史さん（新南陽郷土史会事務局長）、藤井宜章さん（兼崎地橙孫顕彰会理事）、事務局長に私（周南文化協会会長）が就任しています。

顕彰会は児玉源太郎没後百年にして起ちあげた組織です。手探りで試行錯誤を重ねながら動かしってきました。文化協会の組織がしっかりしているとは言え、文化協会事務局は掛川事務局長と交代勤務の女性二人が週五日体制で仕事しています。十分な組織体制ではありません。兼務でよく頑張ってくれています。

顕彰会も平成29年度は二年目に入ります。顕彰会としての事務局体制も本格的に整えて今後の活動を発展させていかなければならないと考えています。会員の皆様方のご支援とご協力を切にお願いします。

## 編集室より 編集委員の たより

### 児玉源太郎の戒心

花田 佳子

明治37年6月、將に征途に就かんとする折の源太郎の揮毫に、師島田蕃根が、藤園（源太郎号）の藤の字のくずし方が違ふと顔をしかめた。

翌年源太郎が満州から帰ると同時に、蕃根は牛込の児玉邸を訪れ、まず凱旋の喜びを述べ、続けて藤の字の略法が間違っていることを難詰した。源太郎は「自分は書家ではないので」と弁解。すると蕃根はさらに厳しく批判。源太郎が戒心すると約束してようやく落着し、後源太郎はそれを守ったという。

いかに栄達しても、門下生として耳を傾け礼節を尽くしたという源太郎のエピソードである。

### 資料収集にご協力を

有田 順一

顕彰会発足後、児玉源太郎に関

する実物資料が少ないのが気になる。実は、戦災で児玉文庫が焼失、その大半が無くなっているからです。

いくら偉人といっても、それを客観的に証明する資料は必要です。それが実物資料です。たとえば、児玉が書いた手紙などが見つければ一級資料となります。

当美術博物館の場合、資料の収集と研究は、必ずや顕彰会発展の礎になると考えています。もし、何かあればお声掛けいただければ幸いです。

### 顕彰会の永続を

藤井 宜章

昨年の春に児玉神社の例祭で、西崎事務局長から児玉源太郎顕彰会創設に対する熱き思いをお聴きして「人生感意気」の心境で賛同しました。

顕彰会が永続するためには、会員の智恵と工夫を結集することが大切だと思います。

会報「藤園」やニュースレター「本丁通信」を全国に発信して顕彰会の活動を知っていただき、顕彰会の基礎強化と伸展に繋がることを願っています。

（兼崎地橙孫顕彰会理事）

## 新たな視点で発見

川上 浩史

学生の時分、日清 日露戦争間の朝鮮半島の鉄道について調べていました。児玉源太郎については、台湾の鉄道や満鉄の創設に関わっているのが名前は承知していましたが、20年を経て、児玉の台湾総督としての取組みや国内の政治状況を学びなおす良い機会となつていきます。

学生の頃見えなかつた景色が、児玉源太郎を中心とした視点でより鮮やかに感じられ、とても楽しく過ごしています。仕事の面でも役立ってくるといいなあ、と企みながら(笑)、顕彰会を盛り上げていきたいと思っています。

(新南陽郷土史会事務局長)

## 大切な二年目

西崎 博史

児玉源太郎顕彰会を起ちあげてあつという間に初年度が過ぎ去ろうとしています。準備委員会から設立発起人会へと、わずか九ヶ月で設立総会へ漕ぎ着けました。しっかりとした組織と展望、高い志と強い実践力があれば物事は成就することを実感しました。

役員をはじめ、関わっていただ

いた方々のお力添えの賜物だと深く感謝します。応援してくださる会員も北海道から九州まで全国各地に及び、目標の五百人を突破、ほんとうに嬉しいです。

一年目が大切です。現状を維持しながらさらに飛躍していくために一層の努力が求められます。どうぞ力をお貸しください。

(周南文化協会会長)

## 「こだま文庫図書館」と

ネーミングライツを

中島 進

小さな新聞社ですが、前身「徳山公論」から数えて71年目を迎えました。過去の記事は検索が難しく、児玉源太郎に関する記事がどれほどかわかりません。多分会報「藤園」に書いたように昭和60年が本格的に取り上げた最初だったかもしれません。それでも今回顕彰会に五百人を超える人が参加したのには驚きました。

「日刊新周南」のコラムで、中央図書館に「こだま文庫図書館」のネーミングライツを、と呼びかけました。もっと多くの人の賛同が得られるように、紙面を通じて粘り強く声を上げていきたいと思っています。

(新周南新聞社代表取締役社長)

## 若者や子どもたちへ

松本久美子

周南市美術博物館では、収蔵している資料の写真の貸し出しを行っています。児玉源太郎については肖像写真や愛用品など、出版社からの依頼がコンスタントにあります。何かにつけて取り上げられ

ることが多いというのが実感です。その一方で、自分と同じ世代や若い世代の方たちには、あまり知られていないなど感じることも多くあります。若い世代や子どもたちに児玉源太郎のことを伝えていくために、微力ながら尽力したいと思っています。

(周南市美術博物館学芸課長)

## 周南文化協会に

## 「児玉源太郎顕彰会」看板

児玉源太郎顕彰会は、事務局を置いた周南文化協会に昨年9月、立派な看板を設置しました。

楡の板に「児玉源太郎顕彰会」と大書されています。「児玉源太郎」の文字は小川亮会長の書体を生かしました。

この書体は、周南市栄町の眼科医、長田昇さんの研究成果を一冊の本「児玉源太郎」(出版記念会発行・非売品)にまとめて刊行した際、元徳山市長の小川亮さんが題字と序文を寄せられました。その題字にあたります。この本は長田昇さんの没後六年過ぎた平成15

年に発行されています。

周南市文化会館の一角に小さな事務所を構える周南文化協会には「立派すぎるほどの看板」との声も聞かれます。どうぞお気軽にお訪ねください。

## あとがき

このニュースレターの「本丁通信」は、児玉源太郎の生家があつた地名「本丁(ほんちよう)」にちなんで付けました。この辺りは武家屋敷が連なり、「本丁」「西丁」などと呼ばれていました。

生家跡には産湯の井戸があり、生誕の地公園として整備されています。

## 児玉源太郎顕彰会